

メに好む。

飴藥丸 アメ藥堅に篋目あり、内銀溜蓋桐の一文黒搔合せ、原叟好、數二十之内左入作なり、
 梔子 如心齋好、左入作赤、一閑張、ヘギメ蓋、箱表長入名判、如心齋書付あり、數の内なり、元來は利
 休所持、金の水指を寫したるなり、但し水指を造り置て左入卒す、其後箱表書付は長入筆なり、利休所持金の水指は、當時平野
 車屋に所持なり、

手付 元伯好、赤は低して共蓋、白は高ふして塗蓋、とも蓋もあり、

黒筒 一入作なり、千家所持なり、蓋は共蓋なし

〔和泉草〕水指

一南蠻ノ銅、熟柿色ヲ上トスル、ウツクシク赤キ吉、一ニ南蠻ニニ日本、三ニ大明也、

〔茶道要録^上〕水壺之事

陶ニ壺形芋頭盥ト云アリ、此外色々ノ品多シ、大方ハ友蓋也、盥其外モ塗蓋ニモスル也、鈕ノ彈蓋
 ノ肉置肝要也、雷盆恰合有テ用ユ、罐、眞手桶、曲水壺ニハ寸法アリ、罐ノ木利休ハ檜ヲ用ユ、元伯ハ
 松ヲ用ユ、其座ニ置ヤウ、取手ヲ豎ニ置、蓋ノ開閉口、傳釜トノ取合、四方釜ノ外ハ、何レニモ相應タ
 リ、手桶ハ取手ヲ横ニ置ベシ、釜ハ絨桶ノ外、何ニモ應ズベシ、臺子ニモ用ユ、俗棚香臺ニハ難用、盥
 ハ専ラ雲龍ニ用ユ、其外細キ釜、絨桶ニ相應セリ、曲水壺縫目ヲ前トス、總ジテ釜ト水壺ノ取合肝
 要也、尤茶盛茶盃ト釜炭斗モ同然タリト云、共釜ト水壺ハ大道具、別シテ心ヲ可付也、略義ニ片口
 ヲ用ユ、蓋ヲ取掛テ口ト縁ニ持スベシ、口アル物ヲバ、必ズ釜ノ方ヘ口ヲ向ベシ、

〔甲子夜話^六〕千宗左召ニ因テ江都ニ出ルノ間、紀邸ノ長屋ニ寓シ、茶器ヲ求テ客中ノ用ニ當タル
 ガ、皆龜惡ヲ極タリ、就中水サシノ水ヲ度々カユルハ煩シトテ、僕ニ命ジテ大ナル水瓶ヲ錢三百
 文ニ買テ、コレヲ爐邊ニ置テ用ヒタリ、其瓶ニ不性者ト銘題シケリ、暇ヲ賜リ發足スルニ及デ、門